

教授 菅原 一晴 / 生体情報解析研究室

主な研究内容と目指す将来像

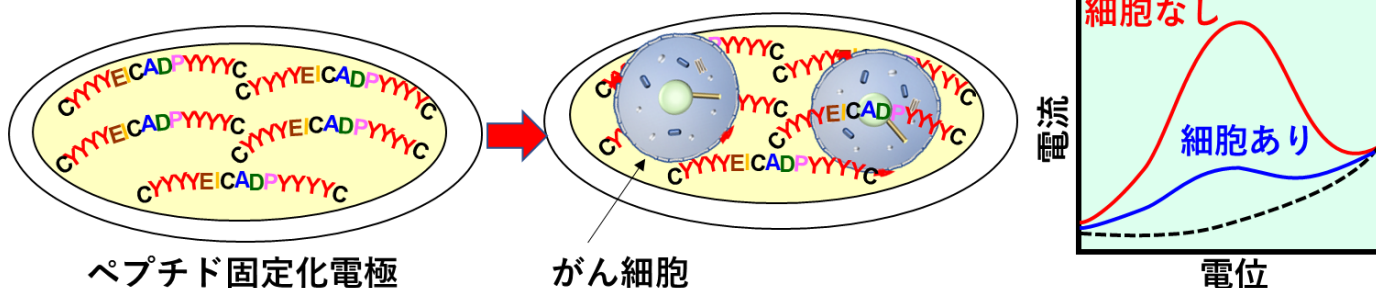
生物の体内では様々な情報が伝達され、それらの伝達には種々の生体分子が関与しています。当研究室ではタンパク質、ペプチド、糖鎖、そして細胞における相互作用を使った分析手法を開発することで、私たちの健康を担う研究を進めています。

研究キーワード

がん細胞 / タンパク質 / ペプチド / バイオ分析 / 化学センサ

研究の魅力・面白さ

- ✓世の中に存在しない分子をデザインし、どのような性質をもち、どのように役立つのかを調べていきます。その中で、まったく予期もしない結果が得られたりするなど、研究の魅力と面白さの一つだと思います。
- ✓最近のトピックスとしては、ペプチドとがん細胞との結合を利用した電気化学センサを考案しています。このセンサは、がんの早期発見に応用できるシステムであり、臨床分野に寄与するものとなっています。



履修しておきたい推奨科目

分析化学(2年後期)、物理化学(2年後期)

研究室配属希望者へのメッセージ

化学と生物、物理の知見と技術に基づいて生体内で起こっている現象を解析し、健康で豊かな生活を目指す研究を一緒にしてみませんか？

新たなことをはじめましょう！

連絡先

kzsuga@maebashi-it.ac.jp